

平成30年度 指導計画・評価計画表 【1年生技術科】 指導者名：井田 弘久

観点 ①生活や技術への関心、意欲、態度 ②生活を工夫し創造する能力 ③生活の技能 ④生活や技術についての知識、理解

指導単元	観点	単元の評価規準（学習評価表）	具体的評価目標（おおむね満足 B）	評価方法・場面	支援の内容
1編 C（1） 生物育成に関する技術 第1章 生物を育てる技術の特徴 第2章 生物を育てるための計画と管理 第3章 生物育成に関する技術の評価・活用	①	<ul style="list-style-type: none"> 生物を育てる技術が私たちの生活にどのようにかかわっているかに興味を持ち、進んで調べようとしている 多種多様な作物に合わせた生育方法に関心を持ち、適切に生育しようとしている。 植物が地球環境に与える影響に関心を持ち自ら調べようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの生物育成の記録を思い出すことやインターネットを活用し、生育方法を調べようとしている。 身近な野菜や野草などの植物の生育に関心を持ち、栽培技術の適切な活用について考えようとしている。 地球温暖化やオゾン層の破壊などの環境問題がある中で、植物がどのような役割を果たしているかに興味をもち、調べようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言 授業態度 提出物の点検 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導 口頭での指示 教材の工夫 授業展開の工夫
時間（1～4） 4～5月 <ul style="list-style-type: none"> 生物を育てる技術 目的とする生物の育成計画 基礎技能 生物の育成計画 生物育成に関する技術を未来に生かそう 	③	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な栽培技術を理解し、栽培計画を立て実践することが出来る。 植物の栽培に適した土づくりをすることができる。 植物を計画通りに生育し、収穫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 種まき、間引き、摘芽・摘しんなどの栽培技術を身につけ、栽培を実践することができる。 栄養素や土の構造、肥料などの条件を考え、植物を健康に育成することができる土を作れる。 栽培計画通りに植物を栽培し、ミニトマト・枝豆を収穫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習中の観察 作品の提出 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導 口頭での指示 視聴覚教材の活用
	④	<ul style="list-style-type: none"> 作物の適した生育条件を理解し、説明することが出来る。 作物に必要な養分や土の構造、植物の体の働きについて理解し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 気温や湿度、肥料などの生物の生育に適した生育条件を理解し、説明することが出来る。動物・植物の両方について生育条件を理解している。 肥料の三大要素や単粒構造や団粒構造などの土の構造、光合成や呼吸などの植物の体の働きについて理解し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 ワークシート点検 作品の提出 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導 補習 机間巡視 教材の工夫

<p>1編 A(3) 第2章 製作品の設計・製作</p> <p>時間(11~17) 5~7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製作品を丈夫にする工夫 ・材料の性質 ・材料に適した加工法 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・設計・製図に関心を持ち、目的とするものを各図法を活用して表示しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・投影の概念に関心を持ち、製作品の設計図をキャビネット図や第三角法などの投影法を用いて表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・授業態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の工夫 ・授業展開の工夫
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活に合わせて製作品の設計をし、身近な生活をよりよいものにしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活に合わせて作りたい製作品の使用目的や使用条件を考え、製作品を設計している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中の取り組み ・学習記録票の点検 ・ワークシートの点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導 ・授業内容の工夫
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な図法を使って製作図を作成することができる。 ・製作品の機能や構造を考えた設計をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作図の構想を等角図、キャビネット図、及び第三角法などで書き表すことができる。 ・キャビネット図や透視図を活用して、製作品の機能や構造を考えた設計をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中の取り組み ・ワークシートの点検 ・設計図の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導 ・視聴覚教材の活用
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・製作品の構想を表示することができる。 ・製作における設計図の必要性について、具体的に知識を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作品の構想を表示するための投影図法の知識を身につけている。 ・設計者と製作者の関係に起因する製作における設計図の必要性について、具体的に知識を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・ワークシートの点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導 ・補習
<p>1編 A(3) 第2章 製作品の設計・製作</p> <p>時間(18~32) 9~2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製作の作業手順 ・基礎技能 ・完成した製作品の評価 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで工具の使い方を調べ、適切な活用をしようとしている。 ・工具の使い方に関心を持ち、安全に活用しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かんなやのこぎりなどの工具の仕組みに関心をもち、活用しようとしている。 ・工具の適切な活用をするとともに、保護や事故防止に努めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・授業態度 ・提出物の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭での指示 ・教材の工夫 ・授業展開の工夫
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・材料に適した工具を選択し、工夫して加工をしている。 ・機器を効率よく安全に活用するために、機器の使用法を工夫しようとしている。 ・材料や状況にあった加工を行うために、工具の選択を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木材の特性に応じて、かんな、のこぎり、やすり、きりなどの工具を活用し、工夫して加工をしている。 ・ボール盤やドリルなどの機器を安全に活用するために、機器の使用法を工夫しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品提出 ・実習中の取り組み ・学習記録票の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導 ・授業内容の工夫 ・製作品の例の提示

	3	<ul style="list-style-type: none"> 木材の性質に合わせた加工をするために、工具を選択することができる。 工具を適切な方法で、安全に使うことができる。 材料の外形、寸法、形状に適した工具を選択することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料の性質に適した工具を選ぶことができる。 のこぎり、やすりなどの工具を適切な方法で安全に使うことができる。 材料の形状に適した工具を選択し、活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習中の進捗の確認、仕上がり状況 作品提出 実習中の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 補習実習 個別指導 視聴覚教材の活用
	4	<ul style="list-style-type: none"> 木材加工に関する工具の仕組みについて、説明することができる。 設計図を正確に読み取り、作業手順を説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 工具の特徴や使い方を説明することができる。 接合方法の特徴や作業の手順を説明することができる。 設計図の線の種類や図面の表現から製品の条件を読み取り、他人に説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 作品提出 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導 補習 机間巡視 教材の工夫
4編 D(1) 第1章 コンピュータと情報通信ネットワークの活用 情報モラルを身に付けて情報を安全に利用しよう 時間 (33~35) 3月 ・情報モラル ・情報技術の特性 ・知的財産権	1	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身近な情報が生活に与える影響に関心を持ち、著作権や肖像権などの情報モラルの必要性を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報化が私たちの生活や社会に与える影響に関心を持ち、情報モラルの必要性を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言 授業態度 	<ul style="list-style-type: none"> 口頭での指示 教材の工夫 授業展開の工夫
	2	<ul style="list-style-type: none"> 情報を伝達・受信する際の問題点について考え、工夫して問題の解決を図ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> メールやブログ等のツールから情報を工夫して効果的に伝達しようとしている。 情報を受信する際の問題点を考え、工夫して問題を解決しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習中の取り組み グループワークの観察 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導 机間巡視 授業内容の工夫
	3	<ul style="list-style-type: none"> インターネット上の様々な権利について調べ、情報の安全な扱い方をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> プライバシーや著作権などのインターネット上の権利について調べ、情報の安全な扱い方をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習中の取り組み 作品の点検 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導 視聴覚教材の活用
	4	<ul style="list-style-type: none"> 情報社会の特質や情報化がもたらす人間への影響について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話やインターネットの普及による情報化の私達への影響について理解し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 小レポート提出 ワークシートの点検 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導 補習 学習記録票の整理

